



メイド長
佳織
教育記

茜しゅうへい堂

— 成人向け —
R18
ADULT ONLY
18歳未満
購入・閲覧禁止

メイド長 佳織調教記



presented by

茜しゅうへい堂

メイド長
佳織
教育記



先週持病で入院した父の専属だったこの屋敷の
メイド長、佳織。

今日から一人息子である俺の専属に
なったが、これだけの美人だ、オヤジが手垢^{てあか}をつけて
無いとも思えなかった。

そこで私は、佳織を私専用のメス奴隷メイドにするべく
父が密かに輸入していた
強力な媚薬を使い調教することにした。

早速今朝 佳織に
紅茶を煎れるように
言う。

早速今朝 佳織に
紅茶を煎れるように
言う。

もちろん、
媚薬入りの紅茶だ。

これは珍しい紅茶だと
佳織にも飲む様
すすめる…

彼女は何の疑いもなく
私に礼を言いその紅茶を
飲んだ。
これから快楽の煉獄^{れんごく}が
始まるかも知らずに
クツクツク…





初めの数時間は
何事もなかったが、

午後にもなればすぐ
媚薬の兆候が
あらわれ始め、

あからさまに佳織は
カラダが疼くのか
ずっと足を
モジモジさせていた。

佳織は部屋の
掃除を中断し
どこかに行こうと
していた。

理由は分かっている。
オレは佳織の背後から
胸を鷺づかみにし

その行く手を
止めた。

初めて触る佳織の胸は
ボリュームもすごかったが
そのやわらかさに一番
おどろいた。



はじめは動揺していたが
すぐに正気を取り戻し
俺から離れようとする。

イヤっ

何を
なさるんですか！

あからさまに
嫌がる佳織をオレは
「体調が悪そうだな、
部屋まで運んでやる」と
抱きかかえた。

まだ佳織と
本番を楽しむのは
時期尚早だが、

このすばらしい
丰满なカラダで
遊んでみたくなった。

俺が

部屋に入ると俺は
理性が迷い

いつも女を犯す時のように
佳織を乱雑にベットに
押し倒してしまった。

キャッ

それほど佳織の
女としての魅惑が
尋常では無かった。



佳織はオレを睨んで
目で拒否したが

.....

無駄だとわかったのか
何の抵抗もせず
されるがままになった。

おっ

おっ

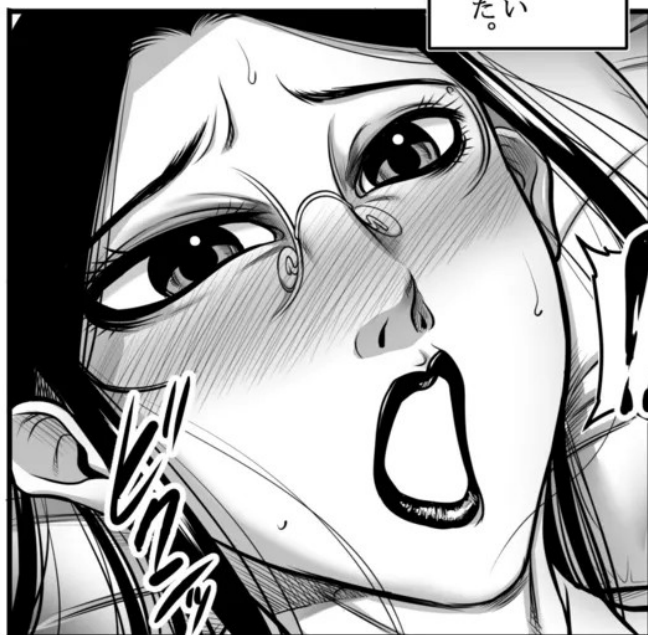
後で父に告げ口でも
するつもりなのか
理由話わからない。

ク

ク

しかしカラダの方は
あきらかに反応し
下着越しでもわかるくらい
ぐしょぐしょに濡れていた。

!!



その夜、私は佳織の部屋の前で
聞き耳を立てていたが
案の定、彼女はカラダのほてりを
我慢できず
オナニーをしている声が聞こえた。



あッ



はひっ



あッ

あのプライドの高い佳織が
部屋の外まで聞こえる声で
自分を慰めているとは…
ますます明日からの調教が
楽しみだ。

やんっ

い、いや



昨日の媚薬が
残っているせいか
佳織はフラフラで
立っているのも
辛そうにしていた。

私は表面上心配しつつ、
昨日と同じ紅茶を
元氣が出ると嘘をつき
彼女に飲ませる。



佳織は少し躊躇したが
紅茶を飲み干した。

その直後佳織は
足に力が入らなくなり
その場に座り込んだ…

ぽ

ぽ





佳織は少し
抵抗するそぶりは
見せていたが、

んーっ



そして俺は
昨日の続きだと
言わんばかりに
佳織を押し倒した。

んんーっ



このまま思いつき
犯されたいと
みえみえの反応を
していた。

きゃー！

だがまだだ！

あうっ

れろ

れろ

あひっ

ちゅ

ちゅ

ここで佳織を犯すのは簡単だが
それでは今までの女と同じだ。
佳織を真のメス奴隷にするには
もっと時間をかけなければ！

れろ

ヒッ

んあっ

いやあああ
だめええ！

ハッ

ハッ

同じ過ちを繰り返すな…



時間はたっぷりある…

んあああっ



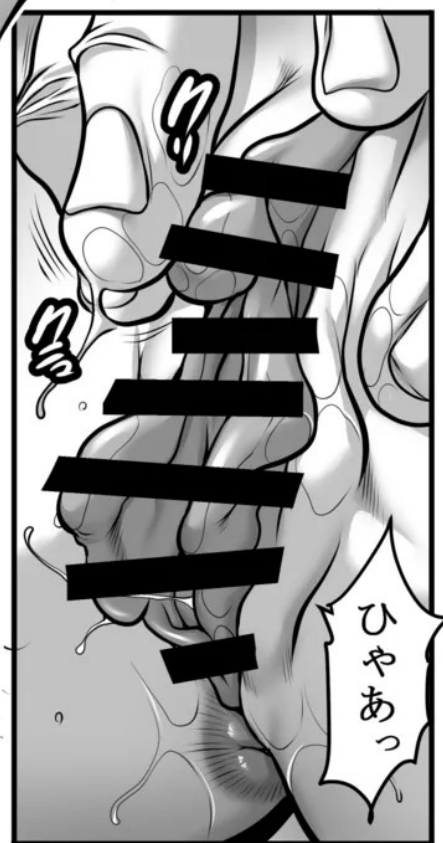
ああ……くはああ

ひっ





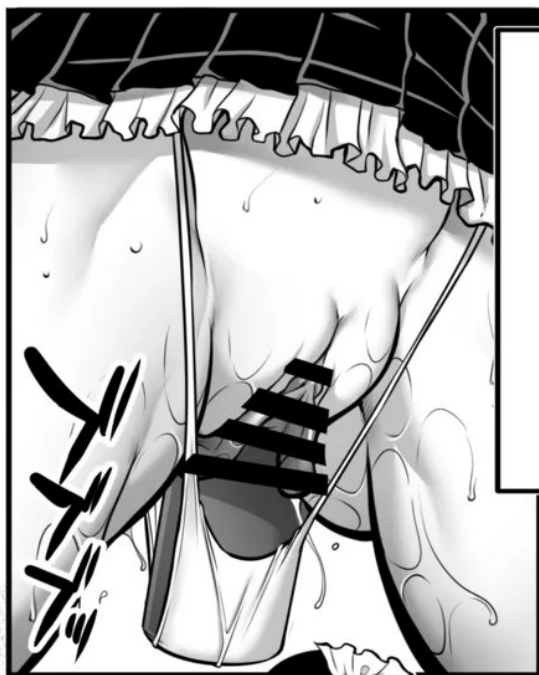
こんな見せかけの
エクスタシーではない。
真のアクメを佳織に
味わわせるのだ！



次の日佳織は
俺の姿を見つけると
トロロンとした目で
近寄ってきた

今日も俺に
して欲しいのか、と聞くと
初めは、はぐらかしていたが
何かモーターの様な音がすると
さらに問い詰める…

彼女は観念したのか
スカートをまくり上げ
パイプを挿入したまま
仕事をしていたことを
私に詫げる。



恥ずかしそうに懺悔する
佳織が愛らしく、一瞬
許してしまいそうに
なったが、

フフッ私は心を鬼にして
折檻せつかんという名の
むち打ち調教を始めた。

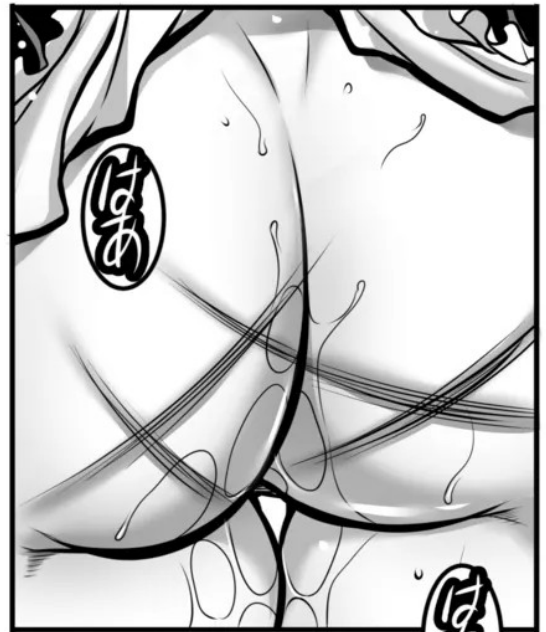
私は胸の高鳴りを
抑えつつ悟られないよう
感情を押し殺し、
調教を続けた。

ひんっ

キヤひっ

乗馬様の鞭で彼女の
尻を叩くたび、甘い声で
悲鳴を上げるのが、
何ともかわいらしい。

「仕事中そんなに
我慢できないならここで
やってみろ！」と私が
強い口調で言う



ムチ打ちが気持ちよかったのか
媚薬のせいかわ、佳織は本当に
私の前でオナニーをし始めた。

彼女のいやらしい
ラブジュースの匂いが
部屋中に充満し、私の股間も
爆発寸前になった…





ああああー
!!

イッ

クックック

心はまったく
俺に服従して
いないのに、

媚薬のせいで
心と体が完全に
解離している状態か

ふふっこれからの
調教が楽しみだ。
なあ佳織…



「現在」

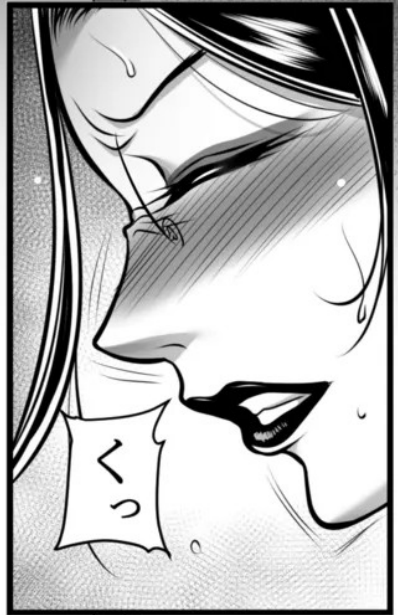
オヤジの部屋に
おかしい服が
あると思ったら、

やはり
おまえ用か

よく似合ってる
じゃないか。

さつきから
震えているが
そんなにカラダが
疼くのか？

しかたない！
尻を突き出しながら
どうして欲しいか
言ってみろ



そんなに俺の
チンポが
欲しいのか!!

は、はいっ

欲しいです!
ご主人様の硬い
ペニスで何度も
突かれます!

お……
お願いします

カラダが疼いて
仕方がないんです。

ご主人様の
たくましいペニスで
私を犯してください!





そんな簡単にご褒美が貰えるとおもうなよ!

ふっ
ダメだ!

まずは
ケツ穴の調教から
始めようか

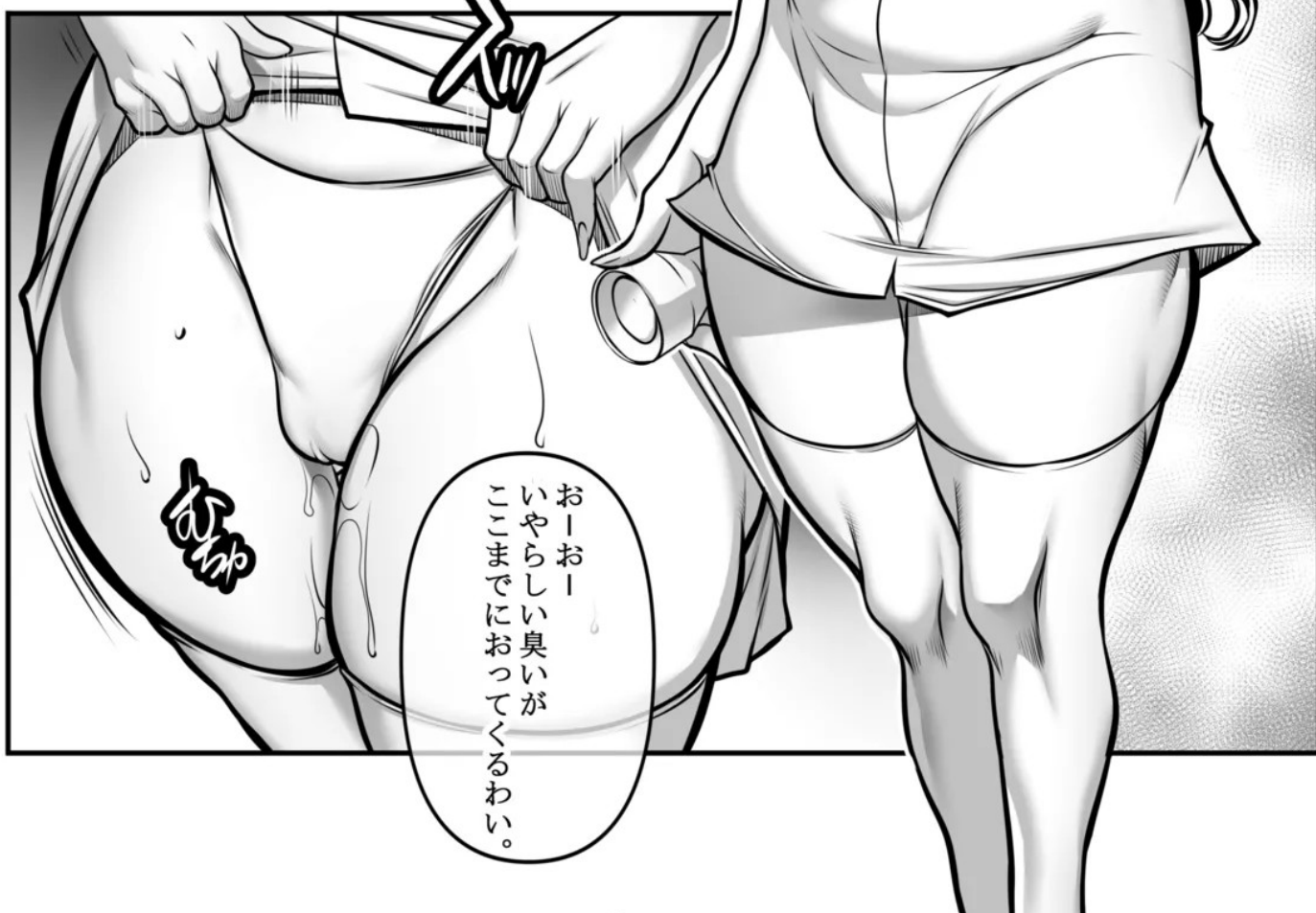
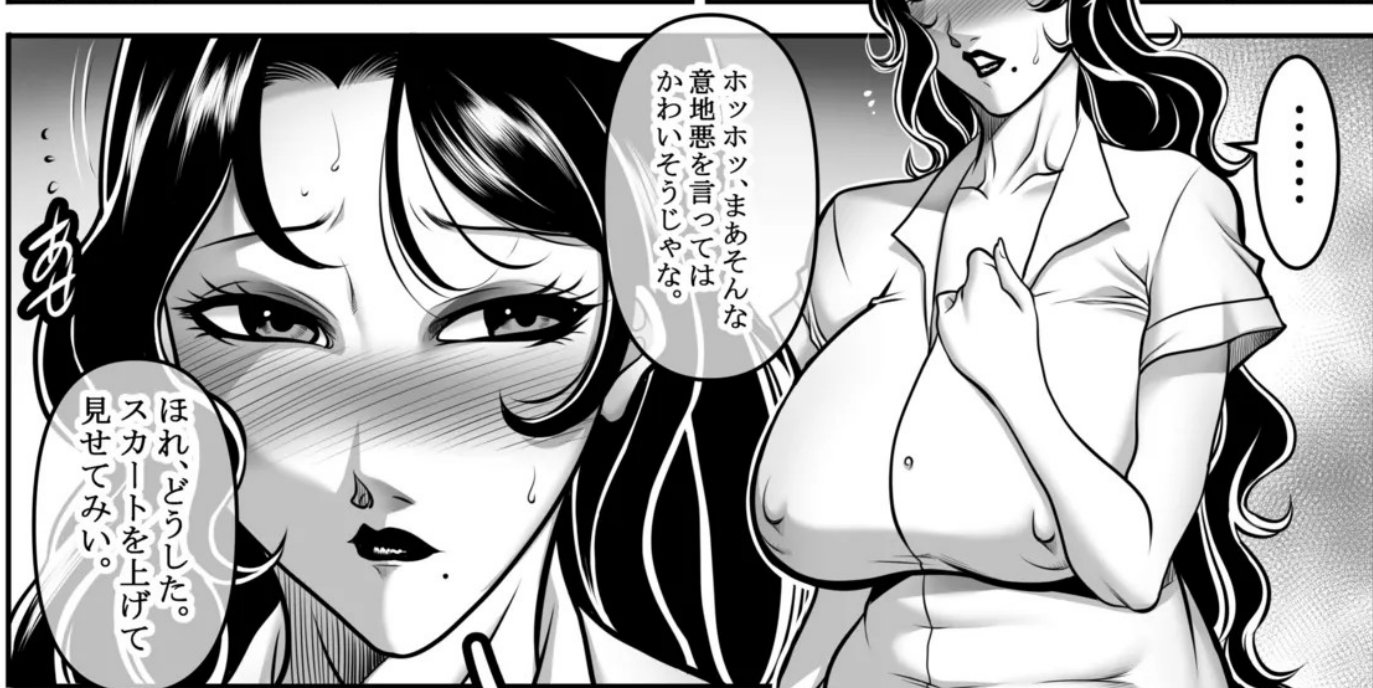
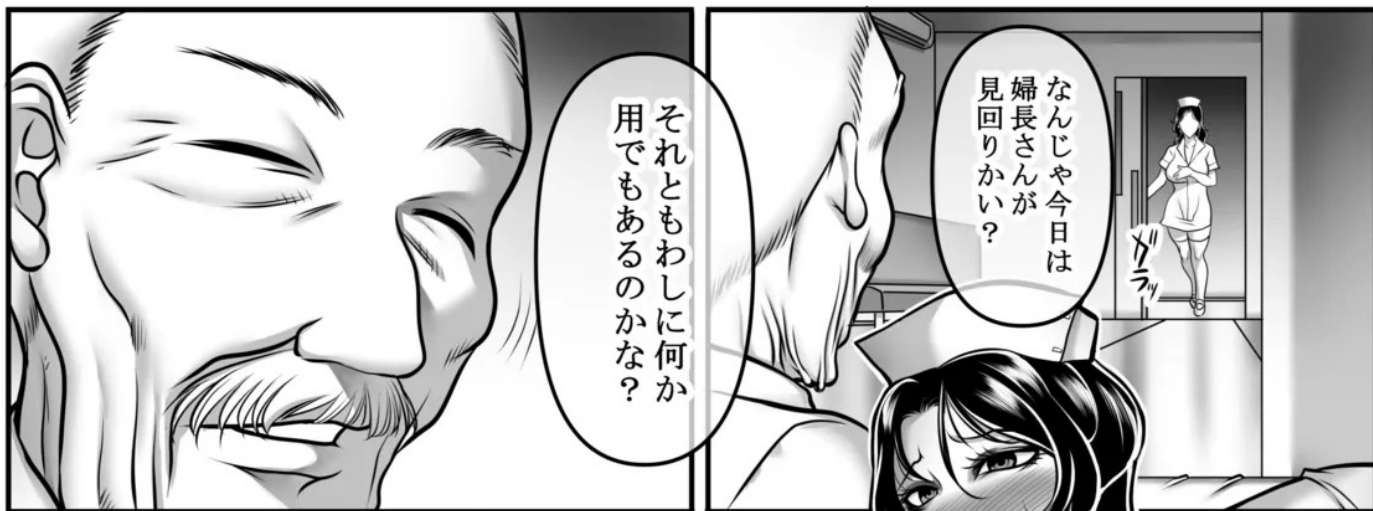
ひぐッ

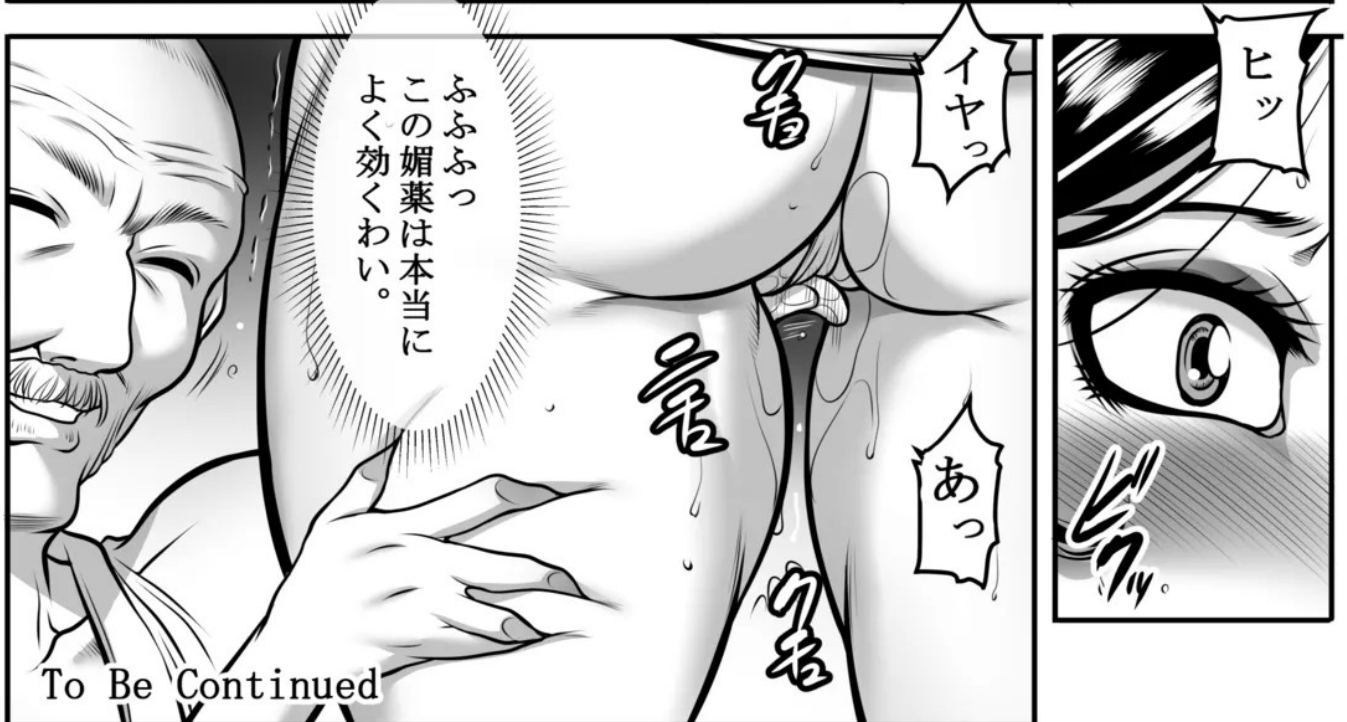
ひっ

ぐっ

ぐん







To Be Continued

【あとがき】

この度は、「メイド長、佳織教育記」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この作品は私が数年前に出した単行本「奴隷未亡人沙希」の спинオフ的作品で描いております。

だいぶ前に書いた作品で内容も少し時系列が間違ってますが私のお気に入りのキャラ「佳織」を主人公にして、これからも続きを描いていこうと思いますので、よかったら気長に見てやってくださいませ。

それでは今回はこの辺で失礼いたします。

2024/12/30 茜しゅうへい

おくづけ

タイトル 【メイド長 佳織調教記】

発行元 茜しゅうへい堂

著者 茜しゅうへい

発行日 2024/ 12/30

印刷所 サングループ

【注意】

本誌の一部ないし全てを発行元、著者に許可なく複製、複写転載、翻訳することを禁じます。

Mail st197651515@gmail.com

X(Twitter) <https://x.com/uraakaneshuhei>

pixiv <https://www.pixiv.net/users/3944388>

メイド長
佳織

調教記

プレビュー版

成人指定
十八歳未満
閲覧入手禁止
同人書籍



メイド長 佳織 調教記 プレビュー版

おくづけ

タイトル

【メイド長 佳織調教記プレビュー版】

発行元

茜しゅうへい堂

著者

茜しゅうへい

発行日

2024/8/12

印刷所

プリントネット

【注意】

本誌の一部ないし全てを発行元、著者に許可なく複製、複写、転載、翻訳することを禁じます。

Mail

st197651515@gmail.com

X(Twitter)

<https://x.com/uraakaneshuhei>

pixiv

<https://www.pixiv.net/users/3944388>

presented by

茜しゅうへい堂

先週急死したオヤジの専属だったこの屋敷の
メイド長、佳織。

今日から一人息子である俺の専属に
なったが、これだけの美人だ、オヤジが手垢^{てあか}をつけて
無いとも思えなかった。

そこで私は、佳織を私専用のメス奴隷メイドにするべく
強力な媚薬を使い調教することにした。

早速今朝 佳織に
紅茶を煎れるように
言う。



もちろん、
媚薬入りの紅茶だ。

これは珍しい紅茶だと
佳織にも飲む様
すすめる：



彼女は何の疑いもなく
私に礼を言いその紅茶を
飲んだ。

これから快樂の煉獄^{れんごく}が
始まるとも知らずに

クツクツク：





初めの数時間は、
何事もなかったが、

午後にもなればすぐ
媚薬の兆候が
あらわれ始め、

あからさまに佳織は
カラダが疼くのか
ずっと足を
モジモジさせていた。



ハア

ハア

その夜、私は佳織の部屋の前で
聞き耳を立てていたが
案の定、彼女はカラダのほてりを
我慢できず
オナニーをしている声が聞こえた。

あッ

あっ

あのプライドの高い佳織が
部屋の外まで聞こえる声で
自分を慰めているとは…。
ますます明日からの調教が
楽しみだ。

い、いや

やんっ

はひっ



昨日の媚薬が
残っているせいか
佳織はフラフラで
立っているのも
辛そうにしていた。

私は表面上心配しつつ、
昨日と同じ紅茶を
元氣が出ると嘘をつき
彼女に飲ませる。



佳織は少し躊躇ちゅうちゅうよしたが
紅茶を飲み干した。



その後軽くイって
しまった佳織はその場に
座り込んだ：



媚薬の効き目の速さに
疑問を持った私は、
佳織に理由を聞いた。

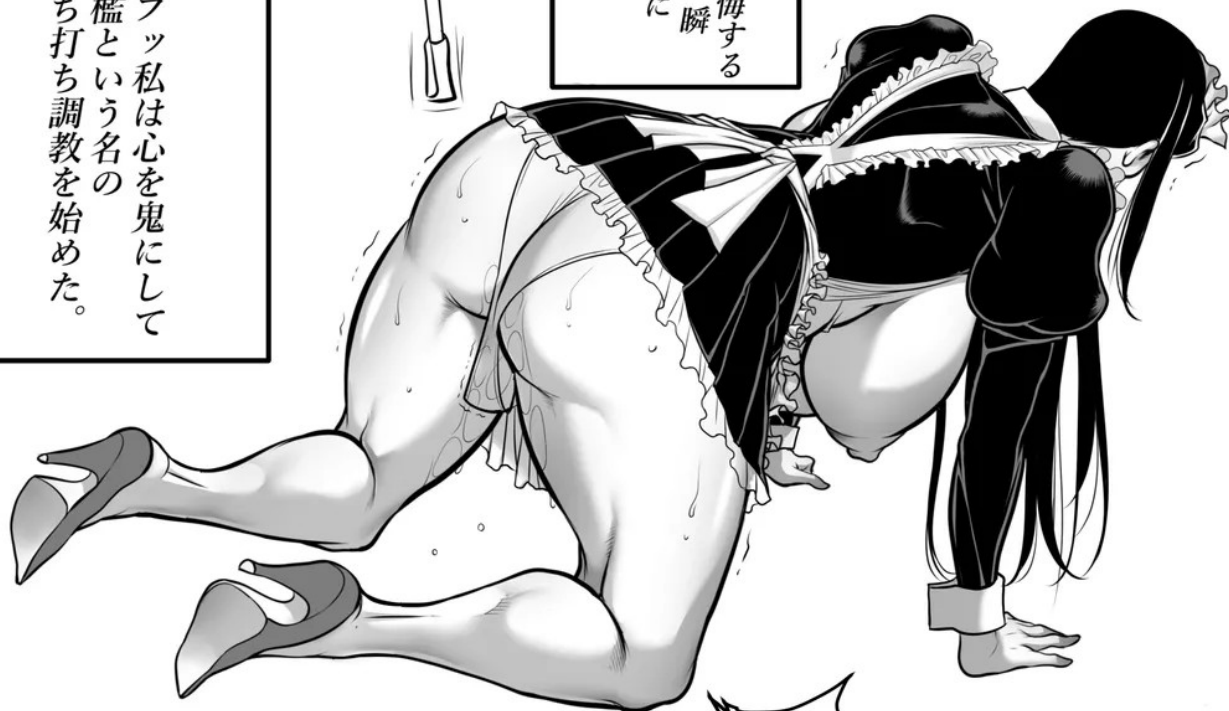
初めは、はぐらかしていたが
何かモーターの様な音がすると
さらに問い詰めると

彼女は観念したのか
スカートをまくり上げ
バイブを挿入したまま
仕事をしていたことを
私に詫げる。



恥ずかしそうに懺悔する
佳織が愛らしく、一瞬
許してしまいそうに
なったが、

フッフ私は心を鬼にして
折檻という名の
むち打ち調教を始めた。



乗馬様の鞭で彼女の
尻を叩くたび、甘い声で
悲鳴を上げるのが、
何ともかわいらしい。

私は胸の高鳴りを
抑えつつ悟られないよう
感情を押し殺し、
調教を続けた。



「仕事中そんなに
我慢できないならここで
やってみろ！」と私が
強い口調で言う

ムチ打ちが気持ちよかったのか
媚薬のせいかわ、佳織は本当に
私の前でオナニーをし始めた。



彼女のいやらしい
ラブジュースの匂いが
部屋中に充満し、私の股間も
爆発寸前になった...

